

## トップマネジメント・コース

～戦略思考に基づいたビジョンを語り、  
先頭に立って実践できるトップリーダーの養成～



開催期間

2019年 7月上旬～12月中旬

日 程

原則 毎週水曜日 18:00～20:30

対 象

取締役、執行役員、事業部長、部長 定員25名

会 場

経営アカデミー  
(東京都千代田区丸の内1-6-2 新丸の内センタービル6階)



公益財団法人 日本生産性本部

<https://k-academy.jp/>

# ねらい

トップマネジメント・コースでは、**戦略思考に基づいたビジョンを語り、先頭に立って実践できるトップリーダーの養成**を目指しています。

## 1. 多視点構想力

大局観を身につけ、ブレないビジョンを構想する力を養う

## 2. 共感価値実現力

組織の内外に共感を生み出し、価値創造につなげる人間力を磨く

## 3. 主体的革新力

自ら先頭に立って継続的に自己革新できる力を強化する

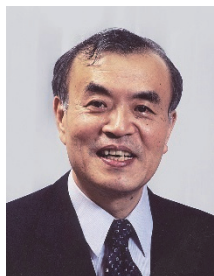
## 指導講師陣

### コース委員長



松本正義  
住友電気工業 会長

### コーディネーター・指導講師



加護野 忠男  
甲南大学 特別客員教授



内野 崇  
学習院大学 教授



浅羽 茂  
早稲田大学  
ビジネススクール 教授



米山 茂美  
学習院大学 教授



安藤 史江  
南山大学 教授

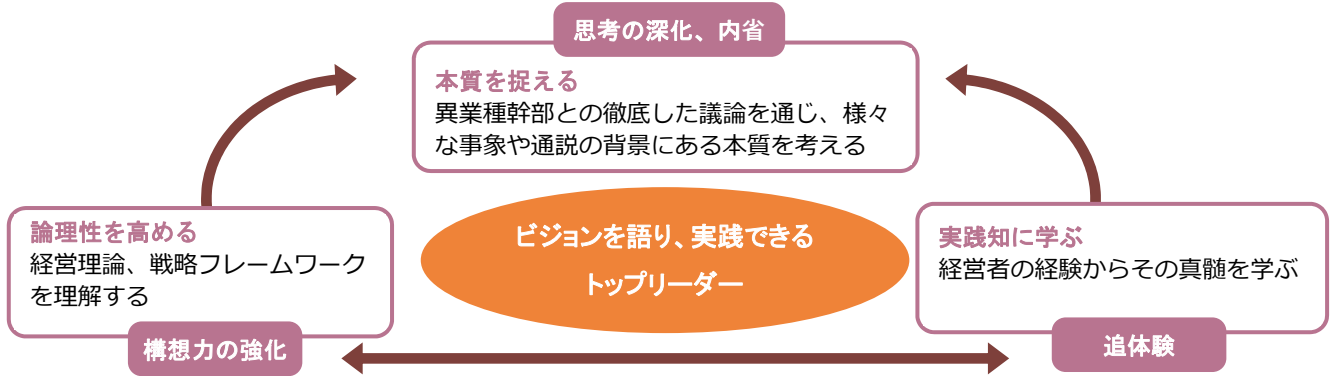
講師陣	(過去2年実績)	加護野忠男	甲南大学 特別客員教授	坂本 幸雄	元エルピーダメモリ 社長
浅羽 茂	早稲田大学ビジネススクール 教授	木川 眞	ヤマトホールディングス 会長	倉重 英樹	シグマクス 会長
新 将命	国際ビジネスブレイン 代表(元J&J社長)	木村 昌平	元セコム 会長	西山 茂	早稲田大学大学院 教授
安藤 史江	南山大学 教授	公文 俊平	多摩大学 教授	富山 和彦	経営共創基盤 代表取締役CEO
内野 崇	学習院大学 教授	坂根 正弘	コマツ 相談役	山田 英夫	早稲田大学ビジネススクール 教授
嘉悦 朗	元横浜マリノス 社長	酒巻 久	キャノン電子 社長	米山 茂美	学習院大学 教授

### 経営アカデミーとは

戦後日本の経済復興を推進し、国民生活の向上を図る目的で設立された日本生産性本部の10周年記念事業として、1965年に創設されたわが国初の本格的なビジネススクール（経営大学院）です。以来50年以上にわたり、企業の実践力と学界の最先端理論がぶつかり合う創発の場として、産業界からの支持をいただき、14,000名を超える修了者（経営アカデミーマスター）を輩出しております。多くの方が企業トップ、産業界のリーダーとして活躍されています。修了されたOB・OGの層の厚さは他の経営人材プログラムを圧倒し、わが国の産業界の発展に大きな役割を果たし続けております。

# 日 程

日本を代表する経営者による経営の真髄の伝授、講義やケーススタディを通じた戦略フレームワークの理解、異業種幹部との徹底した議論により、トップリーダーに求められるマネジメント力を磨く



月	テーマ	講義・演習	グループ研究	自己課題
7月	大局的な視点から本質を捉える 	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界観、歴史観、文明観を身につける</li> <li>戦略の失敗に学び、トップ判断の重要性を考える</li> </ul>	グループ編成 グループ研究【1-2】	自己の振り返りと研修目標の設定
		<b>第1回合宿</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスモデルとロジックを検討する</li> <li>戦略構築のフレームワークを習得する</li> </ul>		
8月	経営者の経験と実践知に学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> <li>経営の本質とは何か ～企業変革におけるトップの役割</li> <li>リーダーシップのエッセンスとは何か ～勝ち残る企業づくり</li> </ul>	グループ研究【3-4】 テーマ探索	各講義の気づきと学びを整理
		<b>第2回合宿</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>経営視点の企業分析</li> <li>イノベーションと価値創造の進め方</li> </ul>	グループ研究【5-7】 テーマ発表	
9月	組織をどういう方向に変えるのか 世界から日本を見る	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織変革をどう実践するか ～ありたい姿、あるべき姿から構想する</li> </ul>	グループ研究【8-9】	 エースコック・ベトナムにて
		<b>海外(アジア視察)</b>  ベトナム  カンボジア <ul style="list-style-type: none"> <li>世界・アジアの視点から自社の事業をどう位置付けるか</li> <li>アジアの成長マーケットをどう取り込むか</li> <li>生産拠点・サプライチェーンをどう構築するか</li> </ul>		
10月	これからの経営を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>顧客価値とビジネスモデルを考える ～違いをどう創り出していくのか</li> <li>ビジネスイノベーション ～儲ける仕組みを考える</li> </ul>	グループ研究【10-12】 中間発表 グループ研究【13-14】	中間振り返り
11月	リーダーの決断と実践を学ぶ	<b>第3回合宿</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>危機に問われるリーダーの覚悟</li> <li>トップリーダーに求められること</li> </ul>	グループ研究【15-16】 集中討議	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>企業理念を経営に活かすには ～理念による組織運営とモチベーション</li> </ul>	グループ研究【17】	
12月	実践への応用を決意する	【グループ研究成果発表】	報告書とりまとめ【18-19】	研修成果の振り返りと実践目標の設定
2020年夏	フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修後の取り組みに関する情報交換</li> </ul>		

講義：16コマ＋選択講義＋フォローアップ グループ研究：19コマ

※講義とグループ研究の各コマ数は2018年度実績をもとに表示。プログラムとスケジュールは変更される場合があります。

# プログラム概要

## 講義：知の獲得と議論の場

### 1. 大局的な見地から本質を捉える

- 日本の経営の善さ、強さ
- 経営者の視点（戦略発想の本質）
- これからの企業経営、経営戦略、事業戦略、競争戦略
- グローバルビジョン

### 2. 本質をあぶりだすフレームワークを身につける

- 経営戦略の論理
- ビジネスモデルの構造を見抜く
- イノベーションと市場創造

### 3. 組織を動かす立場の意思決定と行動のあり方を考える

- トップ判断の重要性
- 経営理念と経営意思決定
- 経営視点の企業分析
- リーダーシップのエッセンス

### 4. 経営トップの実践に学ぶ組織を動かす要諦

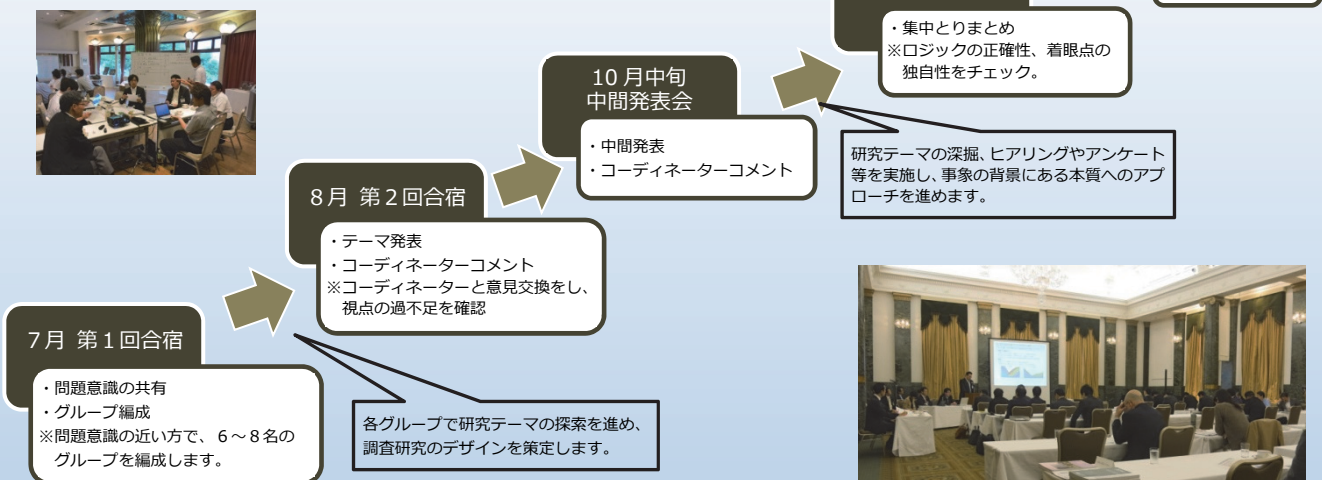
- 激変する環境下での企業経営
- 事業撤退と再生
- 経営者に求められる覚悟と決断



## グループ研究：

### 参加者相互の問題意識をベースとした議論と整理の場

#### ■ グループ研究のプロセス



#### ■ Aグループ

##### 30年先の社会に応える 企業の羅針盤

全ての業界で「あらゆる境界が無くなる」社会へと将来は急速に変貌すると予測される。しかし、「境界」を再整理する事で「残る境界」もあり、そこに自社のコアコンピタンスを活かした成長戦略もあるのではないかと考え、30年先の未来につながる成長戦略を策定。

#### ■ Bグループ

##### 捨てる『価値』あれば、 拾う『価値』あり ～地方創生から学ぶ 「価値転換手法の活用」～

「大きく変化する社会環境にどの様に対応すべきか？」「成長戦略をどのように描けば良いのか？」、この課題解決のためには、価値を再発見し、転換することで新たなビジネスモデルが生まれてくると考え、「価値転換成功の方程式」を導出。

#### ■ Cグループ

##### Mutually Inspiring Leadership

- 自己効力感向上を醸成する  
リーダーシップ -  
組織に属するメンバーの自己効力感を高め、組織の活性化や再生を図るための、トップマネジメントとしての有効かつ適正なリーダーシップについて研究し、自身の行動変容を促すとともに、現代のリーダーシップ論として提言。

# コースの特色

- (1) 様々な角度からものごとを捉える視点を持つことによって、**ビジョン構想力、課題解決能力、問題発見能力の向上**を重視しています。
- (2) 色々な分野の第一人者にご登壇いただき、優れた論理展開力に学びます。戦略課題に取り組むにあたり、戦略的思考とは何かについて、**実践的な思考訓練**を交えながら議論し理解を深めます。
- (3) トップ経験者との対話の中からリーダーシップの本質に触れ、**経営者に求められる意思決定力や覚悟、行動のあり方**を考えていきます。
- (4) グループ研究では、3回の合宿をはじめ異業種幹部との徹底した議論の機会を設定しています。参加者相互の多様な視点を理解し、自分のものの見方や行動の特性を振り返るとともに、**豊かな人脈を得る**ことができます。
- (5) 自社・自組織のビジョン達成に向けた戦略課題、本質的な問題の所在と対策について、指導講師陣および受講者相互で徹底した議論を行います。
- (6) 成果は、与えられるものではなく、一人ひとりが創り上げていくものです。積極的な問題提起や発言が内容をより充実したものに高めていきます。

## 参加者の声（2017年度）

- 実際に企業のトップとして経営に携わった方々の講話は、本で読む以上に説得力や重みを感じられた。聴き応えがあり、信念をもって自分が描いたあるべき姿と現状のギャップに逃げずに挑戦されていることに気づかされた。（製造、取締役）
- この半年間の学びを通じて、自分自身がいかにもまだ「経営者」として未熟であるかを痛感した。その一方で、「真の経営者となるためには何が必要か?」「自身が目指す経営者像とはどういうものなのか?」の輪郭がハッキリしてきた。（サービス、取締役）
- 勉強不足を痛感した。情報入手の不足、読書不足で考える世界が狭かったと感じた。様々な人の考え方、実践してきた事実、現在の最先端情報、大きな時代の流れ、世界の動きなどが非常に気になり、身近に感じられるようになった。研修参加以前より発想が大きくなり考え方に柔軟性が出てきたように思う。（製造、執行役員）



- 著名な経営者の方々と、講話や質疑を通じて直接会話させていただけたこと、経営現場での生々しい体験をお聴きできたことは大変貴重な財産となった。また、グループ研究メンバー各社の企業文化、経営方針、企業戦略、直面している課題等について、議論を行えたことは良い学びとなった。新たなビジネスモデルを創る上で自身の思考の幅出しに繋がったと思う。（情報、事業部長）
- これまで概念的、もしくは断片的な知識であった、自社分析手法や戦略策定方法について、体系的に吸収することができたことを始め、それを実践し成長している優れた経営トップの方々からの講義を受けることで、単なる学問に終わることなく自らの行動の変化につなげる意識を強くもつようになった。これまでの研修にはない自身の成長を感じている。（運輸、部長）



# 広がりのあるプログラム

## ■ 海外調査

海外調査では、「大局観、歴史観の醸成と将来ビジョンの構想」を目的に、毎年アジアの新興国に赴き、現地ローカル企業、現地で成功している日系・外資企業、政府機関や経済団体などを訪問。また、現地の市場や史跡を視察し、民族や文化の源流に触れ、大局観、歴史観を醸成するとともに自社の海外事業展開を構想します。

<訪問先> **ベトナム** JETRO ホーチミン、FUJINET SYSTEMS、GS バッテリー、イオン、エースコック、リンナイ、ロート・メンソレータム  
**カンボジア** JETRO プノンペン、協和製薬、サンライズジャパン病院、住友電装、タマホーム、プノンペン経済特区社 ほか  
(過去2年の実績)

## ■ 選択講義

コース期間中、経営アカデミー全コースから厳選された講義を参加者へご案内いたします。現在直面している経営課題、担当業務における問題意識に沿って、各コースで開催される講義を横断的に自由に選択し、組み合わせることで、ご自身のオリジナルプログラムを作成して受講することができます。

## ■ スキルアッププログラム

コース期間中、「ファシリテーション」「プレゼンテーション」などのスキルアップのためのプログラムを用意。コースの参加者が、必要に応じて自由に受講でき、基礎的ビジネススキルのブラッシュアップにお役立ていただけます。

## ■ ミニMBAプログラム

コース開講前に、「会計・財務」「戦略」などの経営に関する知識を学べるミニ講座を開催。コースの参加者が、これから経営アカデミーのプログラムに参加するにあたり、基盤となる知識の習得や自らの知識の整理・確認ができます。

## ■ 修了後のフォローアッププログラム

経営アカデミーのプログラムによって得られた成果を自社での業務に活かしていくために、終講時に自らの課題を設定。修了の半年後を目安に、自らの課題への取り組みについて進捗を報告します。学びの成果の自社での展開について、さらに効果的な取り組みへの気づきの場となります。

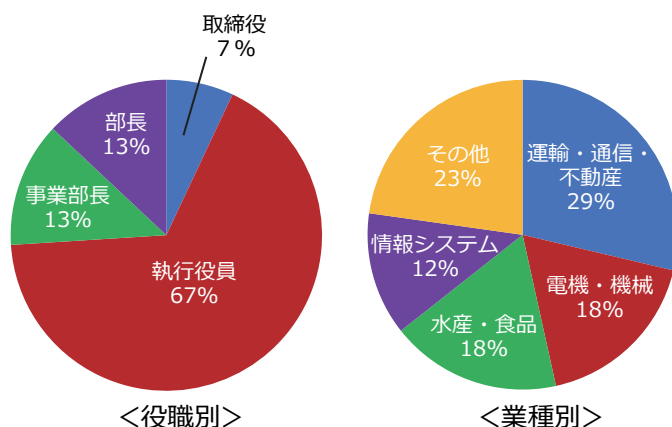
また、グループ単位で継続的に開催されるOB・OG会だけでなく、コース全体や年度を越えた同じグループ研究担当講師を囲む会など、メンバーによる情報交換・事例共有の場として事務局がその開催・運営をサポートしてまいります。

## 近年の主な参加企業 (五十音順)

穴吹興産、穴吹エンタープライズ、穴吹トラベル、穴吹ハウジングサービス、アルケア、NECソリューションイノベータ、NEC通信システム、オリンパス、風間建設工業所、カスタマシステム、カンダホールディングス、キャノンプレジジョン、杏林製薬、共和電業、キリンビバレッジ、KDDI、コマツ、サンエツ金属、JFEライフ、JCB、シスメックス、新日鉄住金ソリューションズ、水ing、大京、高島屋、タキロンシーアイ、竹虎、竹本容器、ディックソリューションエンジニアリング、テックスエンジソリューションズ、テルモ、東京地下鉄、東京鋼鉄、西島製作所、鳥居薬品、日清オイリオ、日本信号、日本政策金融公庫、日本製紙、日本ゼオン、日本電業工作、日本電力、日本郵政、農林中央金庫、乃村工藝社、東日本旅客鉄道、日立物流、富士ソフト、富士通、富士通エフサス、古河電気工業、マースエンジニアリング、マサル工業、マルハニチロ、丸山製作所、三井金属鉱業、三井住友建設、三越ビル環境管理、三和サインワークス、八洲電機、ヤマト、ユー・エス・エス、リックス

## ■ 2018年度 トップコース参加者データ

[平均年齢51.0歳]



# 2019年度 経営アカデミー 参加申込書

<b>貴社名</b>	
------------	--

派遣責任者	〒		所在地	
	所属/役職		氏名	
	TEL		e-mail	
	( )		@	

(※派遣責任者と同一の場合は記入の必要はございません)

研修担当者	〒		所在地	
	所属/役職		氏名	
	TEL		e-mail	
	( )		@	

<b>開講案内送付先</b>	
(○で囲んで下さい)	
参加者	研修担当者

※請求書及びご派遣窓口への必要書類などは研修ご担当者宛に送付申し上げます。 なお、請求書の宛先が上記貴社名と異なる場合は、下記に請求書宛先社名をご記入ください。	
<b>請求書宛先社名:</b>	

参加者 1	コース名	コース	フリガナ
	所属/役職		氏名
	〒	所在地	
	TEL	( )	e-mail
参加者 2	コース名	コース	フリガナ
	所属/役職		氏名
	〒	所在地	
	TEL	( )	e-mail
参加者 3	コース名	コース	フリガナ
	所属/役職		氏名
	〒	所在地	
	TEL	( )	e-mail

**■ご質問** (該当する記号を○で囲んでください)

経営アカデミーご派遣の予算申請の時期はいつ頃でしょうか？ A.18年10月 B.18年11月 C.18年12月 D.19年1月 E.19年2月 F.19年3月 G.19年4月以降

※個人情報の取扱いについて

**下記の【個人情報の取り扱いについて】をご確認、同意される場合に限り、本申込書に必要事項を記入の上、お申込みください。**

1. 個人情報は、『経営アカデミー』の参加者名簿等の資料等の作成、ならびに当本部が主催・実施する各事業におけるサービス提供や事業のご案内、および顧客分析・市場調査のために利用させていただきます。なお個人情報の提供は任意ですが、ご提出頂けない場合、当本部からのサービスを受けられない場合がございます。
2. お預かりした個人情報は、案内状や参加証、テキストの送付などを目的で一部委託する場合がございます。
3. 本部が保有する個人情報について、開示、訂正、削除、利用停止などの請求があった場合には、本人であることを確認の上で本部の定める書類にて対応いたします。
4. 個人情報の取り扱いについての疑問・質問、開示等請求は以下までご連絡ください。  
公益財団法人日本生産性本部 経営アカデミー Tel:03-5221-8455
5. 個人情報保護管理者 総務部長

※コース運営に支障が生じると判断される場合は、お申込みをお断りすることがございます。

FAX:03-5221-8479 E-mail:academy\_info@jpc-net.jp

Web からお申込みの場合はこちら → 経営アカデミーホームページ【URL】<https://k-academy.jp/>

## 経営アカデミー コース一覧

経営アカデミーとは、1965年に産業界の発意と学界の協力により創設されたわが国で最初の本格的な経営大学院です。当アカデミーを修了された方々は14,000名を超え、産業界のリーダーとして活躍しています。

### ●マネジメント・リーダー養成

コース名	実施期間	主な対象者	コースの目的	参加費（ ）内8%税込	
				賛助会員	一般
トップマネジメント・コース	2019年7月～12月	取締役、執行役員、事業部長、部長	戦略思考に基づいたビジョンを語り、先頭に立って実践できるトップリーダーの養成	115万円 (124.2万円)	125万円 (135万円)
				合宿費、海外調査費別	
事業変革イノベーションコース	2019年6月～12月	事業責任者、企画・監査部門の責任者、戦略スタッフ	事業構造変革に必要な取り組みを統合的にコーディネートし、経営トップをサポートできるリーダーの養成	122万円 (131.76万円)	132万円 (142.56万円)
				合宿費別	
経営戦略コース	2019年5月～2020年3月	部長、課長(全職種)	自社ビジネスのあり方を見直し、次の戦略を深く多面的に考えるリーダーの養成	106万円 (114.48万円)	116万円 (125.28万円)
				合宿費別	
技術経営コース	2019年5月～2020年2月	技術戦略、技術企画、研究所、製品開発担当(部長・課長・リーダー)	“技術”から事業価値を創出できるリーダーの養成	106万円 (114.48万円)	116万円 (125.28万円)
				合宿費別	
組織変革とリーダーシップコース	2019年6月～2020年2月	部・課・チームの組織運営を行うリーダー	人・組織・戦略の視点で組織変革を推進できるリーダーの養成	94万円 (101.52万円)	104万円 (112.32万円)
				合宿費別	

### ●プロフェッショナル・リーダー養成

コース名	実施期間	主な対象者	コースの目的	参加費（ ）内8%税込	
				賛助会員	一般
マーケティング戦略コース	2019年5月～2020年3月	マーケティング、営業部門の部長、課長、リーダー、戦略スタッフ	先見性・革新性・戦略性で成熟市場を打ち破るマーケティングの育成	94万円 (101.52万円)	104万円 (112.32万円)
				合宿費別	
生産革新マネジメントコース	2019年6月～2020年2月	生産関連部門(製造、生産管理、品質、調達など)のリーダー、マネジャー	現場と経営の視点で、「強い工場」をつくる人材の養成	94万円 (101.52万円)	104万円 (112.32万円)
				合宿費、海外調査費別	
人事革新コース	2019年5月～2020年2月	人事部・人材開発部門のマネジャー、リーダー、戦略スタッフ	人材マネジメントに革新を起こし、世界で競争力のある強い組織創りをリードする戦略的人事リーダーの養成	94万円 (101.52万円)	104万円 (112.32万円)
				合宿費、海外調査費別	
経営財務コース	2019年6月～12月	財務、経理、IR、企画部門のマネジャー・専門スタッフ	企業価値の向上をリードする、将来のCFOの養成	94万円 (101.52万円)	104万円 (112.32万円)
				合宿費別	

■国内合宿費 1回当たり 4～7万円 (経営財務コースは合宿費のほかにビジネスゲーム使用料 1万円程度)

■海外調査費 トップマネジメント・コース 39万円程度、人事革新コース、生産革新マネジメントコース 30万円程度

※参加費に含まれないもの:丸の内教室通学・合宿・企業見学・インタビュー等の交通費、グループ研究の図書・資料代、その他、個別的・追加的に発生する費用

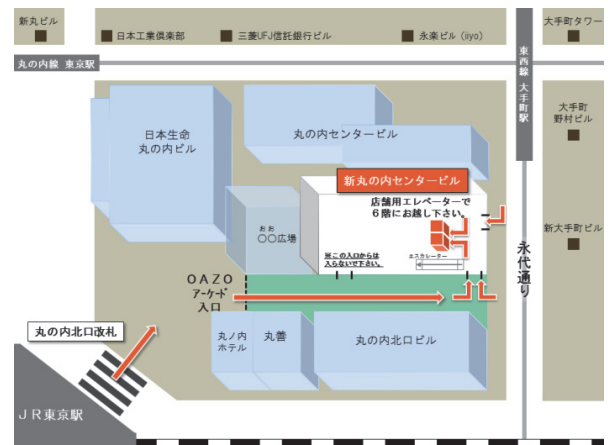
※参加費、その他費用は2019年度の予定金額

## お申込み・お問い合わせ先



公益財団法人日本生産性本部 経営アカデミー  
〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-6-2  
新丸の内センタービル6階  
TEL : 03-5221-8455 FAX : 03-5221-8479  
mail: academy\_info@jpc-net.jp  
HP : https://k-academy.jp/

\* 賛助会員制度につきましては、下記まで  
お気軽にお問い合わせください。  
会員サービスセンター TEL : 03-3511-4026



東京駅丸の内北口より徒歩3分、地下鉄大手町駅B2b出口よりすぐ